

No.ex4101

春浅い尾根道を辿る

生 藤 山

実施日 2012年3月18日(日)
天 候 曇りのち雨
リーダー 島本 陳重
参加者 佐藤金治、島本陳重、鈴木恵美子、渋谷賢寿、渋谷京子、中村友子、小名秀鋭 計7名
費 用 約1500円(高尾起算)
タイム 上野原(8:28)石楯尾神社(8:50~9:00)佐野川峠(9:50~10:00)甘草水(10:10~10:20)三国山(10:40)三国峠(10:45)生藤山(10:45~10:55)茅丸(11:10)連行峠(11:30~11:50)醍醐丸(12:50)和田峠(13:25~13:35)陣場高原下(14:20~14:40)高尾(15:20)

石楯尾神社からアスファルトの道をしばらく歩くと、登山道へと入っていく。森林作業をやって



いるようで、急な山道がトラクターのキャタピラで馴らされていて、引っ掛かりがなく、歩きづらい。

佐野川峠に登ると後は平坦な道が続く。甘草水では展望もあり、まだ山々は雪をかぶっている。里には雲が遊び神秘に包まれた景色を作っている。三国山では富士山が望めなかったがそれなりの展

望がある。生藤山は木に葉が茂るころには、展望は期待できそうもない。

連行峠では、雨に備えて早めの昼食を取るが、よく見ないとわからないほどの小さな黒い虫に悩まされる。



昼食をとりしばらく歩くと、雨が落ちてくる。12時過ぎには雨具をつけることになる。

醍醐丸ではランナーにカメラのシャッターを押してもらい和田峠に向かう。

和田峠にはまだ多くの雪が残っている。山中にはところどころに雪が残っていたが、気にな



るほどでもないが、連行峠に万六尾根を登ってきた登山者は、結構、雪が残っていたようだ。

北斜面は白くなっており、それなりに雪が残っているようだ。雨具は上着しかつけていなかったが、和田峠からは、ずぼんにも雨がかかるようになる。

佐野川峠までの登りを耐えたと、後はきついところもなく、歩いた時間から見ると少し物足りない感じもする。参加された皆さんありがとうございます。

(記・島本 陳重)
(写真提供・中村 友子)